THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年四月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十八號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目錄

〔女學叢誌〕婚姻論（第二）●〔中外新報〕拾數件●〔學藝一班〕食物の事●〔手藝一班〕毛糸編物●〔列女傳〕小万の傳●〔演說〕女學生の心得（穗積陳重君述）○仕來の事（矢田部良吉君述）●〔新作物語〕閨の徹夜燈（第二の續き）●〔家政要報〕インキの附たるをぬく法○五月人形○相場●〔御伽草〕數學問題○考物○前々號の答式等●〔寄書〕手鞠歌の改良○芳野櫻の歌○〔英語獨修〕ニユーナショナルリードル

女學叢誌

○婚姻論　第二

余輩この編を草するに當りその初めまづ婚姻の方法につき古來如何に變化し來りたるかと述べて以て我が邦婚姻の有樣と改むる事に說き及ぼさんと思ひ定めたりしが今また考ふるにまづ婚姻の種類につき如何に遷變りたるかを述べ進化の順序を明かにして我が邦の婚姻は如何なる種類に屬せるや將また我か邦將來の婚姻は如何なる種類たるべきかを豫め論じ定めたる後にてこそ婚姻の方法に說き及ぼさん事至當の順序なれと思ふがゆゑにまづ婚姻の種類につきその進化せる順序を略述せんと欲するなり

扨て婚姻の種類と分つ時は進化の時代〳〵に隨ひてこれと四期に分りを以て至當とは思はれたり即ち第一期は多夫多妻の時代、第二期は一妻多夫の時代、第三期は一夫多妻の時代、第四期は一夫一妻の時代なりとす茲に時代といふは年代につきていふにはあらずしてたゞ進化の順序よりつきていふなるのみされば千年百年の昔といへども進化の度の疾く進みて第四期の時代に達したる人種もあるべく或はまた現世にありても進化の度の進まずしていまだ第一期第二期の蠻俗を脫する事能はざる人種もあるべければ爰にいふ時代とは社會の進度につきて婚姻の種類を分ちたるものなり

第一期の多夫多妻とは數多の男子と數多の女子と同居する事にて最も下等の蠻民中に行はるゝ所の風俗なり抑も野蠻蒙昧の世にありてはいまだ政治上の制度を以て人の行爲を取締る事もなく道德もまた起らずしてたゞ腕力あるものゝ意により萬の行爲の定まるものなるが故に斯る社會にありては固より婚姻の法もなくたゞ多くの男子が多くの女子と同居するといふに過ぎざるなり斯る風俗は今猶ほ最も下等の野蠻人種中に存するものと見えヘイダー人或はピコー山中に住める人種などは誰彼の區別なく好むところに隨ひて男女同居せりといひエルラー人も亦均しく誰彼の區別もなければ隨つて婚姻の約束といふ事もなく合ふも離るゝも皆婦人の意のまゝなりといひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

マントラ人中にありてハ離合常なきが故に一生の中に四五十度の婚姻を結ぶものありといへり
斯のごとく多夫多妻の俗行はるゝ社會にありてハ婦人に定まりたる夫といふもののなきがゆゑに多くの子を生ずるも各々その父ハ誰なるや容易に知るを得べからずしてその子の爲に親といふハたゞ母あるのみ去れば斯る社會にありてハ親戚ハ皆婦人の親戚にして男子に親戚ある事なしアンダマン人のごとき下等の人民ハその子が乳房と離るゝ時に夫婦相別るゝを以てその後ハ母あるも父といふものなしと聞えたり斯る有樣なるがゆゑに兄弟姉妹といふもみな半兄弟半姉妹にして各々その父の異同を知らざれば隨ひてその間の情もまた深からずこれたゞに一家の結合の弱かるべきのみならず一社會を組織する上に於ても人心の結合密ならざるがゆゑに共同の利益を生ずる事もまたなかるべし然のみならず斯る野蠻社會にありてハ假令男子の助けあるも生活の容易からざるべきに男子の助力を假らず婦人の手一つ以て子女の養育をなし遂げん事中々に難かるべしさるからにアンダマン人のごとき父たるものの助力なく母のみにて多くの子女を養育する人種中にハ子を養ふが爲に婦人同士相救ひ相助くるの俗習ありとぞ聞く斯る有樣にて養育の行屆かざるがゆゑに定めて幼時に死するものも多かるべく好し辛うして養育をなし遂げたりとてその子の心體の發育甚だ虚弱なるべきハ當然の事なりアンダマン人中にて三人以上の子を持てる婦人ハ最と稀れなりといひ死生の割合ハ一箇年に生るゝものゝ數十四人につき死するものゝ數ハ三十八人の割合なりといひまた同人種中四十以上の年齡に達するものハ甚だ稀れなりといふも皆これが爲の外ならずされば多夫多妻の習俗ハ大に人種の蕃殖を妨げ社會の發生進歩を害するものにして到底この俗の世に存在すべきものならず他に一層の良法を求めて遷りゆかずんバあらざるなりこれ自然の道理にして進化の定則ありとハ思はれたり

◎中外新報

○行幸行啓　明廿六日午後一時御出門麻布鳥井坂なる井上外務大臣の邸へ行幸明後廿七日にハ皇后宮同時刻御出門にて同邸へ行啓遊ばさるゝ旨去る十九日仰出されたり因に記す同大臣ハ今度京都より移されたる八窗庵開きの爲廿六日七日の行幸啓に引つゞき廿八日にも小集會を催はされ朝野の貴顯紳士および貴婦人を招待せらるゝよし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○ファンシー、ボール　前號に記したる如く去る二十日に伊藤伯爵御夫婦の催ほさせたる假裝會に招かれたる方々の中貴婦人方の扮裝の二三を聞がまゝ記るさんに會主夫人にて在す伯爵夫人ハ三百年前の西班牙貴女に同令孃ハ伊太利の田舍娘に扮し玉ひ高木海軍々醫總監夫人ハ赤十字の印つきたる看護婦の服を着けられたり適當の思附きなりとの喝采を得られしと聞えたり扨て伏見宮御息所ハ蝴蝶の神に扮裝せ三條内大臣の令孃ハ歐洲の花賣娘に三嶋警視總監の令孃二方ハ松風村雨に擬し御曹司牛若丸と見えしハ高崎東京府知事の令孃にて白拍子靜の優にやさしのりしハ山尾法制局長の令孃なり澁澤榮一氏の令孃も蝴蝶の神に扮たち山縣伊三郎氏の令室ハ日本の田舍娘に松方大臣の令孃ハ稚兒の姿に扮たゝれろの他思ひ思ひに工夫を凝らし我邦に始ての假裝會にしてハ萬に都合よく平日の禮儀正き宴會とハ異り殊にうち解けて午後九時に始り歡を盡して廿一日午前四時過ぐる頃解散ありしと聞く

○舞踏會　貴婦人方の創設たる舞踏會の會員たるものハ從來重に勅　奏任官　華族各國公使御雇　外　國人の夫人令孃に限りたるを自今ハ民間のものといへども身元慥かなる者の妻子にても同會員の紹介あれば入會するを得らるゝ事に改まりしといへり尤も至極の改正といふべし

○女官の寄附　東京府養育院慈善會の創設につき皇后宮附の女官方より一時金百圓を同院へ寄附せられまた皇太后宮附の女官方よりも一時金四十七圓を寄附ありしと郵便報知新聞に見えたり

○養育院慈善會　ハ來る五月十三日より開會あるよしにて去る廿一日本挽町の原生舘に於て委員會を開き陳列場及び規則等の事を協議ありしと聞く

○頌榮女學校　にてハ英學と普通學のみを教授なし來りしが世の中の進につれて教務を擴張せんとて今度校則を改正し裁縫、踏舞、唱歌、英語學の數科を加へ更らに外國教師をも增聘するの計畫中なりといふ

○明治女學校　ハ追々盛大に赴き從來外國女教授二名の所今度更にハルリス氏を增聘しまた日本女教員ハ五名なりし所植村スエ伊藤マサ香坂トラの三女史を加へ教科書等をも大に改正ありて他へ移轉の事ハ暫時見合となりしよしまた同校ハ自今大隈重信君より每年百圓づゝの補助を受くる事になりしといへり是ハ同君の令孃が入校し居るゝにより斯ハ寄附金をもなし他よも應分の助力をせらるゝなるべしと聞く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○成立學舍　にては四ッ谷東信濃町十番地へ分校を設け本舍同樣の學科を男女生徒に教授せるよしまた駿河臺袋町の同舍女子部にては通學し能はざる女子の爲に舍外生といふを募り毎月一回づゝ講義録を頒つ筈のよし此校外生は入舍金五十錢月謝三十錢との事なり

○婦人の献金　芝白金臺町二丁目の柏ノブ女氏は今度金千圓を海防費中へ献金の義を願ひ出しに許可なりし由

○束髮の婦人は品行善し　上野は先頃より櫻花と共進會を兼て日々人出も多き中に花見連中の内には年增も娘も打雜りて酒興に乘じ肌脱にて鬼ゴッコ杯して遊べる有樣はいと醜し流石に束髮の婦人には斯る醜体なるを見ずといへり

○米國來信(第五十五號の續き)　殊にドクトル、ムールの演說に亞ぎリントン婦人の演說を各新聞雜誌に掲げてより當國に於ては殊に婦人教育論盛んに相成既に先達てもボストンにて教育年會を開きたる節も教育を受けたる婦人の責任といふ論題にて討論ありし事を當地(チカゴ)の新聞にて承知致し候ろい節も彼のリントン婦人の論說につき議論甚だ盛んなる趣きにて終に高等の教育は全く婦人の身体を害するものなるや否諸學校に就きて取調べをなすべしとの決議をなし候得共此事は當國政府にて取調べ候處にては學校教育を受けたる女子家にのこありて定まりたる教育を受けざる女子よりも健康なる結果の報告ありし由小生が友人より承り申候扨て前に申すボストンの教育會にてホルトといふ人が小兒に音樂を教ふるは精神の發達を助くる事少なからずとの論題にて演說をなせしよし新聞に掲げあるを讀みその論旨に據る時は糸を以て音を發する裝置の樂器にては更にその功なしといへり然らば我が邦の三味線琴の類は音學(樂の字の間違ひにはあらず)の上より論じ教育上にその價値なきものと見え候小生音學に暗きが故に同氏の說の當否は知らざれども兎も角も三絃の類は文明世界の樂器にては無之と相信じ申候　(以下次號)

○世の中の良人　人の妻たるものは斯くあるべし然るべからずなどいふ事をば能く知りたるも人の良人たるものは斯くあるべし然てはよからずなど能く心得たる良人は世の中には試に稀れなるものなりと新英國教育雜誌にあり

○成立學舍女子部概則(前號の續き)　(衛生)第一年は生理學、第二年は健全法、第三年は育兒法、看病法　(家政經濟)第一年は經濟大意口授、第二年は金錢出納の心得、婢僕取扱ひの心得、簿記の心得、經濟、第三年は衣服食物器具鑑定買入幷びに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

保存心得、家作の心得、室内装飾の心得(裁縫)第一年第一期ハ和同第二期より和洋(編物)第二年より(刺繍、押繪、組糸)第二年第一二期(唱歌音樂)第一年第一期ハ唱歌第二期よりハ唱歌箏洋琴(圖畫)第一年第一期ハ和第二期より和洋(挿花茶湯)第二年より(割烹)第二年より和洋(運動)適宜運動　(未完)

◎學藝一斑

○食物の事

爰に記載するハ博士セドウヰック氏が米國のロウヱル學校に於て講義したる衛養論の筆記なり原衛養生理學と題したるを通俗に解り易からんが爲茲にハたゞ食物の事と題し逐號に譯載すべし蓋し家事衛生ハ婦人の心懸べき要務なれば多少の利益なくんばあらずと思ひてなり

抑も衛養といふ事ハ食物を食道に入るゝ時より始まるなれども實ハその前料理をなす時に既に始まれりといふべしされば料理ハ食物を消化する作用の中にて決して忽かせにすべからず食物の消化する事ハ人の體中に入て後の事にハあらず料理もまた消化の一部分なりとハ誰も思はざるが故に兎角に料理法に意を用ひざれども料理法のよからざる時ハ忽ち不消化の病を惹き起す事疑ひなかるべし故に料理をなす時既に食物の消化始まれりと心得べし左に食物の經過する道中記を示さん

第一消化
- 外部の消化(即ち料理する事)
- 内部の消化

第二吸收
- 血中に吸收せらるゝ事(之をたゞ吸收といふ)
- 血中より原形質に吸收せらるゝ事(細包吸收)

第三變化
- 組成もの
- 消亡せるもの

第四排泄
- (甲)尚ほ必用なるもの
- (乙)全く廢物となるもの(大小便等の如き物)

こゝに消化といふハ右の第二の如く吸收せられんが爲に食物を分析する作用をいふなり右の中第三の作用こそ生活體を組立つる最も緊要の作用なれ元來人の體ハ竈と同じ事にて薪炭を以て養ひさて後に不用なる灰を生ずるなりこれ即ち右に掲ぐる第四の作用なり

右の他に絶えず氣體を吸ひ込みまた吐き出せり總て人の身體に出入するものゝ勘定をなす時ハ左の如し

入り方
- 氣體、酸素と水氣
- 流動體、水と鹽(溶解したるもの)
- 固形物、食物

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

出方｛氣體ハ炭酸と水氣
　　　流動體ハ水と鹽(溶解したるもの)
　　　固形物ハ大便｝

人の體中に出入するものハ右の外になき如くなれども尚此外に入る物にてハ力と出る物にて熱との二つあり總て經濟上の出入と均しく出る物あれバこそ入る物ある道理にて此出入の勘定をなさんにハ食事をなさずして居らば能知ゝなり(未完)

◎手藝一斑

○毛糸編物

上鞋の編方　初め前號(第五十三號)に記したる如く連鎖を十五(目の數)編みこれに編みかけて十二行あむべし尤も一行毎に中心の所にて二つあみ目を殖すべし此十二行にて前面ハ十分なり扨此一方の縁にて十二取りて三十行あみまた之を他の一方に編み附くべし斯くて上の方を丸くなるやうに取りて一行編むべし之に好みの縁を附けたるのち内側を反して外となしリボンにて紐をつけ前にて結ぶなり

但し縁かざりハなるべく緩くあむべしまた此上鞋を編むにハ獨逸糸の染分糸を用ふる時ハ別して美麗なり

◎列女傳

○歌妓小万の傳　(前號の續)

日廿日ばかり過ぎて又消息あり少しおこたりざまになりぬれば船の出る折待ちて其方に思ひ立ちぬべけれど病院の入費もおほかたならず旅宿にも斜ならぬ心遣ひせさせつれバ其報いをも厚くせまほしきに預け置つる物の殘とさして用なき物ハ兎も角もして抔いとはかなげなる事ども書きつけたり斯るかくろへ事をさへ人手に委てかゝせられつると見ればおこたりつと有るも覺束なし抔坐に疑ひ思ハずしもあらねど最初よりしてハいたく日數も隔れるに打棄おきてハいと便なく萬こゝろ苦き事多かるべしとて此宿の主人に語らひよりて衣服調度抔の不用なる取集めて明日香川のせにかへもしつまた旦暮にかなたの樣ハ如何ぞなど懇にとはるゝ人抔にも問諮りて望む人に取せ抔して辛く其物ハ調へしかど便につけて送り届けむも心もとなきやうなればとて心知りたる宿の男にあつらへつけて出し遣りつ秋のならひとて打續き風あらましく吹きそさび雨さへをどろ〳〵しう降れバ船路やいかならむ抔思ひやられていとゞながめ勝なる程東京よりの消息とてもて來るを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

急ぎとりて見れば長崎のたより聞きてんと悲しうろこにもさこそハ種々に思ひ乱るらむ杯細かにかきたる末にこゝハ嵐のいと烈しくて墻ついぢなども打毀れて浅ましく荒にたるを繕ハむとて其方の者よべど何處もく同じさまなれバ捗々敷ハよりもつかずさらぬだに人少なゝる家のそら恐しきに斯わらはなるが心もとなくてとけてハ夢も結ハず二夜ばかり打過しに立田の山のとねたち三人つと入來て有る限りもて行くを誰かハ辞み支ゆる事のなるべき常ハ我たけくんへる男どもゝ衾かづきて潜み居れば況て甲斐なき女わらハべの何とかすべき只心の儘に取るに委せたる遺憾さハ心もことバも及ハずなむされど長やかにてきら先く物にうち損傷ハれしハ明障子と畳ばかりにて道に誰にも疵負するとの無りしぞ歎きのなかの幸にハ有りける手筥の底に隠しおける物ハ更なり衣櫃などもわる限りうちかへして持去にたれば日に添へ肌寒くなれるにまとふべき物もなく如何ハすべきと心まどひして今はた夢路とたどる心地せらるとわるに讀みも果ず胸つぶれて涙さへ先さしぐまるゝも道理西の空にてハ病の床に重き枕もたげもあへずと聞きて必ならずのみ思ひ悩るゝに東のかたにも斯く懸ても思ハぬまが事の出きうできたるハ神も佛も見すて賜しにや

など歎かれて霎時ハ物も覺えず漸涙おし拭ひつゝ又取あげて見れバ其方にも思懸けぬいりめの多からむとハ推量らぬにしもわらねど白波のたちの騒ぎに引のこされし磯屋のわれまもかい繕ひ冬がまへの心急ぎもせらるれど先だつものゝまづいと乏しう心細きをば如何かせましと思へど別にとひはかるべき人もなければ聞えさするなりなどあはれなる事どもかきつらねたる玉章のにじみ勝なるハ彼方にも涙ながらに物し賜へりと見ゆるに初鴈ならねど聲とはにあげても泣きぬばかりに打歎かるゝぞあはれなる長崎の方へ人出さぬさきならば半をだに分ちて參らせむになど彼方此方を思ひやれど都て甲斐なしされハ斯るみありさまにてハ只此返答と指屈かぞへて待せ賜ふらむに棄置くやうにてハ頃日のみ惠をも忘れ事なき時に音信まゐらせて大事なるとりに物けなく思ひとれる樣にや見えむなど千々に心を配れど詮術なくいでやかたへの事ハ後るとも是が御返しゝて扨後にてそまたせむ樣も有らめと思ひかへしていと力無げに硯引きよせて文かけどはか〲敷ハ筆も運バず折しも外の方に人多く走り出て思ひしよりハ早かりけりなど聲高くいひ罵るハこゝの女どもなるべしと聞きさして又筆とる時へだての障子おしあけて入り來るハ此比出した

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る男なりいそぎてや來つらむ汗拭ひなどしつゝ彼方にもまち暮させ賜ふ折なりしかば日一日隔ていづる船に召させたまひて今朝神戸に着せたまひぬ船路もおもひしよりハ平安にておハしませど道に御疲れの添せ賜へればやすこし休らひてとて彼所の宿に入らせたまひぬこゝにハ人も多くて萬にあかぬ事なく見あつかひまゐらすればこゝろもとなからず此方にハ旦暮に御うへのみ覺束なうおもひ遣らせ賜ふらむと推量られつればすこしも早うこの事聞えさせむとて走りまゐりつされど是もゝ許しを受けて參れるなればゆめ打棄て來つとな思しそなど忠誠だちていふ平安にて在すとてろいへ疲勞の増せ賜ふとハいとゝゝろ苦しき事になむ朝夕の物など

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

は何程りゝ參りたまふぞ起臥もみづからせさせ賜ふ事はかなはぬかなど詞急しく問へばまだ粥さへ多くはめし賜はず病院におはする程は看護の人の手をかりて枕とかへなどもせられしか船にてはと云ひさしたるは人手の無きに苦しさを忍びて在するにこそと思ひていとゞ胸ふたがれど此人の一歩先にと急ぎゝつる心遣ひをもいたはらで只思ふとのみうち重ねいへるは我ながら心づきなき者と人の思はむもやさしかりしなど遽だしき中にも思ひかへしてくり返し勞ふほどに又外の方に人でゑしてはや着せ賜へりとぞいふ

（未完）

◎論説

○女學生の心得（前號の續き）　穗積陳重君　演述

右は一般の規則に致しまして扱て前にも申せし如く美と用との二元素は人々の身分若しくはその貧富によりて多少その割合を違へねばなりませぬ例へば華族女學校の如き所にては實用教育の法固より忽せにすべからずと雖もまた美術主義の教育は餘ほど大切にて隨分重なる部分を占めてもよろしき事と思はれますまた此學校の隣の女子職業學校の如きは美術主義忘るべからずと雖も素より實用を主とする學校であります」

扱て此東京高等女學校の學生たる貴孃方は如何なる身分のお方が多いかと申しますれば中には例外もありますれども先づ中等社會即ちミッドル、クラスとて一國の腦髓とも申し最も大切なる人民の部分に屬する人が十の八九であります何故中等社會は最も勢力ある人民かと申しますと一國の人民の中程に立ち智識と財產と兼て居るものはこの種類の人民に限るからでございます上等社會は財產はありますまた智識も隨分あるものもありますけれども中等社會ほどに智識と財產が釣合ては居ませぬまた下等社會は通常智識も財產も乏しくありますソコでまづ文明諸國では中等社會に最も勢力が強いと申します扱て我邦にて我々ごとき中等社會は封建時代の武士の種が多數を占めて居りますから西洋諸國の中等社會とは少し樣子が違ふ所があります西洋諸國にて中等社會の財產と智識との割合と我邦の中等社會の智識と財產との釣合と較べて見ますると我邦の中等社會は智識の割合には財產が少なからうと思ひます我々の位はお公家樣のやうに身代よりは遙か高うございます然らば此學校の品位といひ我々共の身分といひ前に申す美麗部分も實用部分も兼修めねばなりませぬことと思はれます別して只今も申す通りの我邦中等社會の有樣で

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すから今日西洋の敎育風化を我邦に入やうとすれば經濟の方にハ最も注意しなけれバならぬ事と思ひます先日私の友達の一人が西洋風を本邦の婦人社會に入れるにハチープ、エンド、レファインド（お安くて上品）といふ事と守るべしと申されましたチョット勝手な注文のやうに聞えますけれどもその中に無限の妙味を含み甚だ適切なる言辭と思はれます」前にも申す如く上等社會の炭素ハダイヤモンドと化する部分頗る大切でありますし又下等社會の炭素ハ石炭となる部分最も大切です中等社會の婦人ハ双方ともに要する位地に立て居ります若し我々にして敎育の裝飾分にのミ偏重すれば或ハ和歌を詠ずれバ小町式部などにも優り力をも入れずして天地と動し目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ音樂を奏すれば蟬丸モザルト、ハンデル、メンデルゾーンの如く梁の塵を動し淵の魚を躍らし繪と畵けば西洋のラファエール日本の雪舟金岡を欺き茶、生花、起居、擧動、言語、應對、髮の結やう、衣服の着樣、何から何まで實に一點の打所もなき立派なレデーが出來るかも知れません然しながら若しこの婦人にして一家の經濟、衛生、子供の養生、敎育法を知らず親子兄弟夫婦等の道に暗き時ハ必竟美麗で恐しくない怪物としか見られません如何に風雅たる心にて春のあした向嶋の櫻を雲かと疑ひ秋の夕瀧の川の紅葉を錦と詠ればとて文久錢とお雛樣の刀の鍔と見違へるやうでハ困ります昔羅馬のオーガスタス帝フランク王國のシャレマン大王等ハ皇后皇女等に紡績裁縫を習はせ近くハ英國の今上ビクトリヤ女皇ハ皇女に料理法を習せ玉ひしと語り傳へます古今帝王すら斯のごとくであります我々が實用部分を力めなければならぬハ勿論の事と思はれます」また前に反し實益部分ばかりで女子に尊ぶべき美麗の元素ハ少しも顧みぬといふ流義も困ります婦人にハ編物だとか料理法だとか裁縫だとかばかりを敎へられて滿足し居る連中ハ少しも婦人の溫良美麗の元素を發達せしむるを勉めません私ハ實業ハ勿論大切と思ひますし且つ婦女子の實業ハその位地を進むる一助とハ信じますけれども中等社會のものがこればかりに偏重してハ如何であらうかと疑ひます必竟此方にばかり偏しまするを謂ゆる卑近の實利主義に陥ります」是まで述べました事を譬へて申しますれバ美麗と實用ハ丁度エジプトの尖塔の樣な物でその頂上が美の極點でその基底が用の極點のやうなものです美ハ高く少く高等社會に需用多くして下等社會に需用少し用ハ多く廣く上等社會と雖どもこれなくてハ立つ能はぬもの

二百三十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

であります中等社會ハ尖塔の中間にありますから美用ともに取らねバならず且つ用の分量ハ尖塔の下の方にありますから割合多くなくてハ叶ひますまい」扨て右のごとく美と用との比例を定め置きまして是より右の考へを我々日常の心得かたに適用して見ませう」まづ第一に衣服の事につき一言を述べませう衣服ハ身體の温氣を保つためのものです併ながら衣服ハ温氣を保つ丈の用をなせばそれにて足りとし其色合恰好着様等にハ少も注意しなくてハいけません女學生にハ往々ある事ですが衣服の着様恰好等甚だ不注意にして帯が背後へベラりと垂れて居る事がありますし上前と下前が上り下りして居る事がありますし衿の邊がゴチヤ〳〵して居る事がありますし世の中の人が女生徒ハ一見して分ると申しますも衣服の着かた杯が一つ目標となるものと見えます尤も是ハ無理のないところもあります毎日の學業が世話しく且つこれに實が入るとツイ斯うなり易いものです男の方にも學者やら學者の眞似をする人で隨分衣服などの事にハ不注意な人がありますし併しながら婦人方ハ別して衣服ハ身体を温むるの用の外に身體を飾るの用をなすものぢやといふ事を忘れてハいけますまい衣服についてハ特に經濟と美術を兼るの注意が大切でございますゆゑに何卒華奢に流れずして優美ならんことを希望いたします

（以下次號）

〇仕來の事（前號の續き）　　矢田部良吉君　演述

一二年の中にハ貴孃方ハ人と應接するにハ如何して適當なるや夜會にハ如何なる服を着してよきやヂンナルにハ如何なる擧動を適當とするや此他社會百般のよき習せをご承知になる事でありませう尤も既にご承知のお方もありませう」扨て社會にハ仕來といふ事がありまして淑女紳士ハこれに依て交際上行儀の紊れざるやうにすると申す事を長々しく申し述べましたが世の仕來ハ必ずしも皆よいといふ譯ハございません日本の昔よりの仕來も今日に至りましてハ宜くないから止めになッたものも澤山あります宜くなくても今日まで續て居るものもあります例へば武士といふものハ素町人土百姓ハ長い刀で切り捨にしてもよいとか男子ハそろの妻を殆ど下婢の如くに取扱ッてもよいとかいふ如きハ宜くない仕來です西洋の仕來でも人が數々いふ所ですが婦人がコルセットを餘り堅く締るとか耳に穴をあけて耳環をはめるとかいふ事ハ餘りよき事とハいへません今申しさやうな事ハその宜くないのハ忽ち分る事ですが此外能く考へて見なければそろの善惡の分らぬ事もあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ります併ながら人々の本心に問ふて見て是がなければ不行儀な事が出來るだらうとか一家が治るまいとか社會の秩序が紊れるだらうとか思ふ所の仕來は容易に破ッてはならぬものでございます而てよき仕事は日本でも西洋でも同じものが澤山です例ば子たるものは親を大切にしなければならないとか弟子たるものは師匠を敬はなければならぬとか人の惡口をイッてはならぬとか無暗に衣服抔を飾ッてはならぬとか其外幾らでもあります併し西洋と日本とは衣食住の事交際の仕方の事宗旨の事抔は違ッて居ッたのでそれ等の事に至ると仕來の違ッて居る事は多くありますがこれとても能く其精神を考へてみると違ひは案外に少いものです」貴孃方が此學校を卒業なさる頃には色々の學問藝術を學れて天晴の婦人にならるゝでございませう併ながら天晴の婦人になッたから婦人社會の仕來のごとき小な事に構はなくてもよいとは申されません若しこれに構はずして勝手次第な事をいたして男子同樣に或は玉突をするとか或は煙草を吹かすとか或は角力を取るとか或はヅボンを穿いて走り廻はるとかいふことは勿論なさらぬとも優美なる女子の習せに背たこととしては人から指とさゝるゝでせう

（以下次號）

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第一篇

南翠外史

（前回より續く）何故瑞西國の國旗が此の慈善社の標章に成つて日本の博愛社まで赤十字社といふ名を附けたかといふのに瑞西國といふ國の成立から話しをせんでは了解ますまい、お覺や其方は袂時計を見さであらう彼の時計は何處から製造されたとお思ひだェ何でも物を見たら能く其の出來た元から考へんでは成りませんぞ、此の袂時計は今此の母が話さうと思ふ瑞西國で製造したのだヨ、一体瑞西國といふ國は歐羅巴の中央に位して居て北は獨逸東は墺太利南は伊太利西は佛蘭西に取圍まれて居て歐洲中で一番山の多い國です此の國は上古はヘルウェッチとかレチャンスとかといふ土人の住んで居た處であつたが其の後羅馬の版圖に這入て日耳曼人種が澤山に此の山國へ入り込み一時は佛蘭西のシャーレマン帝の領分に成たけれども又々日耳曼に併されてはじめて封建の政治を布きました、けれども其後墺太利の祖先に當るハブスブルグ侯ルドルフと云ふ人は此の國の貴族であつて大層に人望のあつた人だから其の人が日耳曼帝の位に陞つた時には半分の餘は皆

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

な墺太利に成りましたがフルドルの子の代に成つてから我が儘な御政治をして此の國へゲスンルといふ大變に無理な事をする鎮臺と置いて税を澤山に取立たり無理といふ無理な取扱ひをしたものだから此國の人々より墺太利を怨んで何も同じ國殊には自分の親の生れ故郷でありながら此んな無理無法をすると云ふ事はないと寄るも集るも皆な立腹して居つたうちにスウヰツ、ウリー、ウーテルワルテン、なぞいふ諸州の人々義兵を擧たのは千三百七年の事であつたが怨みに怨みが重なつた勢ひは中々鋭いもので墺太利から來て居る官吏を逐拂ひ鎮臺と戰さをして未だ何方が勝とも負るとも極らない時此の義兵のうちにウヰルレムテルと云ふ鐵砲の名人が顯はれました此の人は日本でいふと市ケ谷にお在になる陸軍大佐の村田さんの様に狙撃といつて物を狙ひ撃つことが上手で一日の事自分の砲術が何の位甘く成つたか試して見やうといふので自分の子長の首へ橙子を乗せて遠くへ、立て一發に其の橙子を射落したといふ程名人であるが到當此のウヰルレムテルが鎮臺を射殺してモルガルテンといふ處の戰ひには墺太利の兵を美事にうち破つて千三百十五年には義兵を起した八州の名代人が約束として瑞西といふ獨立國を拵らへたのが此の國の濫觴である、夫から後も墺太利と戰つてチシーといふ處を領分に入れたりフリーブルグといふ府を味方にしたりしたが千四百九十九年にはまた〳〵墺太利と大戰爭として今度も墺太利の方を破りバーセル、シセメホーヒン、アワヘンセルなどといふ州を併せて獨立を立派にしました、其後此同盟中に内乱がありたけれども内々の事に止まつて外國と戰爭をするやうな事はなかつたが千七百九十八年に隣國の佛蘭西で其方も略史を教はつて知つてるだらう彼の拿破翁一世が大軍を起して歐羅巴を蹂躙つた節此國でも内乱と外患とが起つて一時は拿破翁に攻破られたが維也納會議で此の國を獨立させ諸大強國の間に挾まつて居つて何處から此國を攻取つても直に大爭動に成るからといふので戰爭には頓と關係ひなしの局外中立國といふものにしました、夫れゆゑ國内を二十二州に分けてベルンといふところに中心政府を置き此國會で政事を取つて居たが貴族と民平との爭ひやら宗教の爭ひやらで兎角國内が穩かでない處から千八百四十八年に全國の代議士を集めて會議をした上新に憲法といふものを設け法律を改革して地方自治といふ政治を敷きましたが外國 交際と兵權といふものは皆な中心政府で行ふことにして其の外は其の國々で宜いやうに政治

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

をする誠に珍しい共和國でありますぞ、斯物事が調つて見ると益々何のゞ進むばかりで一番先に死刑を廢したりなぞといふ美德の多い中にも電信や郵便の萬國同盟といふ事も此の國から始まり總て歐羅巴の平和に係る事ハ此の山間の小國が首に成るやうな勢ひであるが乃母さんなんぞが考へても宜いと思ふのハ萬國平和會といふて世界に戰爭ほど殘酷で耻なものハないかふ是れを去ないといふ會で其の平和會の手始として行つたのハ此の赤十字社である互ひに心わつて戰爭をするにしても元ハと云へバ我れも人も同じ人間である同じ人間ならば互ひに惠み合なくッてハ成らぬのに世の中が其處に到らぬから畢竟戰爭といふものがある

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のだが此の中の負傷者ほど悲憫な者はないといふ處で戰場へ出て敵味方に拘はらず之れと療治して人世の不幸を扶け苦痛を減しやうといふので此の組合を拵へ之れと各國へ通じて會議をそると何處で慈悲を惡いといふ者がありませう諸國へも之れが組立になり全く之れを組立たのは瑞西國だから此の國の譽れを傳へる爲めにとて赤十字と此の會社の記章にして社名も赤十字社と號け此の徽章のある者は何れの戰場でも自由に通らせ決して禍ひを受けさせないといふ事に成つて現に先年埃及でアラビーが叛謀を起した時の戰爭には此隊が出張して大層に負傷者の療治をしました、開けた國は何處へ行ても大概は此の赤十字社といふものが立て居て何れも其の國の后宮樣が總載をなされておいでなさる夫れで今度日本でも鹿兒嶋戰爭の折に小松宮樣が社長に成つてれ立なすつた博愛社を瑞西國の赤十字社の同盟に加はらして日本赤十字社と改められたからは何でも充分に資本がなくてはといふので活人畵などをして寄附金を募るのでありますぞ、其方は兎角に氣があらくしいから是れを覺えて些と慈悲心を出さんでは成りません」と繰長くも語る程に孤燈の影はの暗く夜もいたく更けたれば母子は其處に枕を並べて睦じき夢と結ぶべし

◎家政要報

○インキを剝す法　衣服などにインキ墨の附きたる時はいまだ乾かざる前に速かに酸模或はレモンの汁また是等の品なきときは極上の酢をつけて極上等の堅き石鹼をそり込むべし大抵のインキは剝るものなり（政家全書）

○五月人形　は本年は餘ほど景氣よき方にて直段も上向のよしまづ御座飾幟は槻臺の彫刻飾附四尺餘縮緬の幟緋羅紗の總白毛の長柄等九本立の上等は凡そ十五六圓より下等七八圓同く三尺臺にて上等六七圓より四五圓まで二尺五寸臺二圓五六十錢内外なり又一尺五六寸の小形五本立位のものは一圓四十五錢の言直にて吹拔鯉は最上大方丈五間よて三圓五十錢三間半が二圓七十五錢二間が三圓位より以下二三十錢の小鯉もあり人形は色々あれども鍾馗の一人立上等二圓内外小形の安ものは七十五錢より五十錢二人物も四五圓位下等一圓七八十錢まゝ永濯齋の製品にて緻密なるものは下等七八圓内外極上等は二人物十七八圓の賣前なるよし

○白米　一圓に付（一等米）一斗三升六合（二等）一斗四升四合（三等）一斗四升九合（四等）一斗六升一合（五等）一斗七升三合なり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○數學問題（答は五月十日まで）

薪四十八束を金一圓にて買ひその運賃十七錢八厘を拂ひたりといふ時は一束の價何程づゝとなるや（神田二水君出題）

○考へもの〻題（同上）

（甲）左の詩及び次の歌は誰と詠せしよや

事不非常難立功。君臣同祿又何雄。誰知森海他年術。已熟献茶三碗中。　（岡山秋喋園主出題）

我夫はいかてはふらんわかもゑと思ひて身をばはふらせし鴨

（乙）左の句を漢字二字に解すべし（攝津牛谷美子出題）

林下祖師現半身水邊尊者減首尾

○前々號數學問題の答式

$$\frac{10\times12\times2}{10}=\text{殳即ち}24$$

$$\sqrt{24^2+10^2}=\text{玄即ち}26$$

答　勾十尺　殳二十四尺　玄二十六尺

答者　東京中村かね子、吉田鈍齊、今村常、竹内哲夫、戸田元、美濃笠松撫箏女史、淡路廣石仁井万平、筑前飯塚とめ

○前々號考へ物の解

（甲）の詩は源義經（解者）東京内海春吉、金村なか、横濱岡田くに子、美濃笠松撫箏女子、筑前廣田とめ、大阪飯森はつ、南總福田登美、伊豫星川とみ女

（乙）の歌は靜女（解者）東京金村なか、中村かね子、竹内哲夫、美濃撫箏女史、筑前廣田とめ、會津の一書生、南總福田登美、伊豫星川とみ女

（五十四號數學及考物解者追加）諏訪金子準藏、靜岡矢部かく子

◎寄書

○改良てまり歌のはしがき　大阪菟道　春千代　誌

昨日までよろしといひ美麗とて堅く結ひたりし嶋田髷や勝山も今日は其身に害あるを知りて束髪に改め花の顔に愛を含める三日月の眉も故なく剃落せし昔を笑ひ雪を欺く許りの白き歯も人の妻となりては必ず之を染るを以て世の習慣とせしも今は其無益有害なる事を悟りあよやかなる楊柳の腰に太く廣き帯を纏へるの不便を覺え吹來る風に裾を卷られて脛の現るゝ衣服は風俗に宜からずと論ひて衣服の改良を雪の上の高き御あたりより仰せ出されしとほのかに承はり糸竹の歌に不祥からぬ言葉ありとて端歌の改良を企圖る人ありて婦女子に改良を施さんとする人數多あり夫斯の如き今の世なるに我國の少女等が常にてよなき快樂となす手鞠遊びの歌に至りては未だ改正を施す人なく此處に姉が「一ットヤ人も通らぬ山中と」と唱へば彼處にて妹が「二ットヤ見る程」と大聲にて唱へるは實外國人に對しても心耻かしき事ならすや嗚呼世の父母達よ凡そ親にして子に不品行を敎へんとする者なきはいふ迄もなき事なから若し斯る猥褻しき歌を唱はしめて咎

二百三十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兇ざるに於てハ亦聊其罪なしといひ難かるべし春生是を憂ふる事最久し故に此度我國の女子手鞠歌を改良せんと欲し拙き歌ともものして梅の家の君に謀りしよ淳媚にもいたく賛成し玉ひて春生の跡をつぎて歌と贈り玉ひされば今爰に合せ記して世に弘めんとはりす世の父母さらん人我子をして品行方正ものとなさんと思はゞはかなき遊び事にも心を用ひて夢にだも猥褻しき歌どもを唱はしめざる様常々心し玉へかし

改良てまり歌　花の家　莬道春千代　作

一ツトヤ　人ハよろづの靈なれば鳥や獸類におとるなよ〱
二ツトヤ　二人の親に孝行とつくして恩をわするゝな〱
三ツトヤ　身をバ大切にやしなひて親の心をやすんぜよ〱
四ツトヤ　世にも尊とき我君に忠をつくしてそむくなよ〱
五ツトヤ　家と先祖を大切にわもふて家業をわこたるな〱
六ツトヤ、無益なことで朋友と爭ひおこしていかるなよ〱
七ツトヤ　習ふてわけよ學文ハ幼少いときにかぎるぞや〱
八ツトヤ　やぶれた衣裳きるとても人ハこゝろが第一よ〱
九ツトヤ　言葉多きハ禍失のもとゝわもふてつゝしめよ〱
十ヲトヤ　共に白髪の生へるまで夫婦中よくくらせよや〱

花の家莬道君の手鞠歌と跡をつぎて　梅の家山田あつ子作

十一トヤ　いつも勉强怠たらず師匠の敎をよく守れ「大切に
十二トヤ　二度と人にハいはるゝな惡弊をバ矯直せ「朝夕に
十三トヤ　三々九度ハ親々に任さぬ開化の世の中を「能悟れ
十四トヤ　師匠や親を敬ひて人の禮義をおこたるな「常々に
十五トヤ　五倫の道の其中に忠と孝とをわするゝな「夜晝に
十六トヤ　論より證據と習ひたるお手際よく見える「褄口に
十七トヤ　七去三從ハ昔しにて誠わそてぬ今の世を「貞節の
十八トヤ　鳩に三枝の禮あれバ鴉に返哺の孝行を「忘なよ
十九トヤ　國に母たる皇后宮も手ら蠶飼をし玉ふぞ「畏しや
二十トヤ　二十の富士を重ねても倘盡されぬ國の恩「忘るな

○芳野櫻　莬道春千代　詠

これ小楠公と詠ずるの歌を見て聊か思ふ所あるを以て彼の歌により更らに芳野櫻の名と負せて作りしものなり

嗚呼正行よ正行よ　汝幼くわるとても
父が言葉をよくきけよ　正成むなしくなるならば
またも天下ハ乱れはて　惡臣日々よ彌まして
君よ眞實を盡さんと　思ふものさへ絶えてなく
時を得顔よ足利の　頑賊等がさばへなし
あしき族ハ我がまゝに　强弱肉をあらそひて
世ハねば玉の暗やみと　なりたる時ハ大君に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

必ず忠をつくせよと
母の訓と身にうけて
かたきの長の胸板に
斯く云ふものゝ我はしも
たゆる事しも有あらば
若や病の其の爲に
なき我父に孝なふず
黃泉の鬼神とならんより
心の駒にむちうちて
至りて君の御かほを
尋けなくも其身をば
詔勅をバちかふにて
おもふ心を鏃もて
無き數に入る其名とバ
急ぐ四條の畷にて
またゝく中に討破り
いませる方を枕にし
眞心はめて外つ國の
吉野の花と諸共に

父の敎を肝にしめ
氣をはり弓や返し矢を
射て徹さすに果つべきの
かよはき質に有ぬれば
病蓐の上に玉の緒の
君の爲には忠ならず
病の爲にはかなくも
氣をはげまして潔く
吉野の山の行宮に
伏し拜みたる其時に
いたはれかしと有難き
如意輪堂の壁の面ょ
彫り殘したる梓ゆみ
爰にとゞめていろ〱と
五百餘万の大軍を
いさ是迄と大君の
なき其數に入りにける
人も其香をしたひつゝ
倘芳はしく匂ふなり

◎英語獨修

○ニユー、ナシヨナル、リードル直譯

(前號の續き)㊀私ハ㊁小さ㊂小鳥ヲ㊃見㊄なす㊅莫●㊀私ハ㊁巣ニ㊂於て㊃卵ヲ㊄見る●㊀卵ハ㊁白く㊂有る(平)●㊀然り㊁卵ハ㊂白く㊃ある
㊀少女ハ㊁アンデ㊂有し(平)●㊀然●㊀彼女の㊁猫ハ㊂遊ヲ好む●㊀猫ハ㊁巣ニ㊂於て㊃有し(平)●㊀然㊁而て㊂牝鷄ハ㊃彼女ニ㊄於て㊅走りし
㊀子供ガ㊁獨樂ヲ㊂持つ●㊀如何に㊁速に㊂彼ガ㊃夫ヲ㊄使て㊅廻さ㊆使る㊇かヲ㊈見よ●㊀汝ハ㊁獨樂ヲ㊂廻し㊃得る(平)●㊀然㊁私ハ㊂獨樂ヲ㊃廻し㊄得る

NEW NATIONAL FIRST READER.

(*Continude*)

II.

I do not see the little bird. I see the eggs
㊀ ㊄ ㊅ ㊃ ㊁ ㊂ ㊀ ㊄ ㊃
in the nest. Are the eggs white ? Yes, the eggs
㊂ ㊁ ㊂ ㊀ ㊁ ㊀ ㊁
are white.
㊃ ㊂

III.

Was the girl Ann ? Yes. Her cat likes play.
㊂ ㊀ ㊁ ㊀ ㊀ ㊁ ㊃ ㊂
Was the cat at the nest ? Yes, and the hen
㊃ ㊀ ㊂ ㊁ ㊀ ㊁ ㊂
ran at her.
㊅ ㊄ ㊃

IV.

The boy has a top. See how fast he makes
㊀ ㊂ ㊁ ㊈ ㊀ ㊇ ㊁ ㊂ ㊄ ㊆
it spin ! Can you spin a top ? Yes, I can spin
㊃ ㊅ ㊃ ㊀ ㊂ ㊁ ㊀ ㊁ ㊄ ㊃
a top.
㊂

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

七條峰太郎編輯
女子必携　**女子作文楷梯**　鼇頭作文要用字類　精刻木板全壹冊定價金廿二錢　郵税半額四錢郵券代用す

從前小學校の生徒に文と教ゆる男女一樣なるが爲めに不都合多きハ教育家の常に思ふる所也然れ共女子に作文を教ゆる好書なきが爲めに只思ふるのミにて之を濟ふ能ハず今此書ハ專ら女生徒に婉曲にして通じ易き作文を教へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲に編著せるものにて作文獨稽古と共に小學教員及び生徒諸君の錦嚢たる書なり

從吾軒田中參先生編著
女學讀本　一名女大學　附録譯語箋　精刻木板全壹冊定價金廿二錢郵税前同斷郵券代用す

近來女子の教育漸く開け之を教ゆるの書も少なからず然れ共大抵一方に偏して日本の事情に適せず田中先生之を憂ひ東西を折衷し古今を參酌して此書を編そ卷中ハ德、容、言、工、事夫、教子、守節、誡、の八章に分ち婦女一生の寳鑑たるハ勿論小中女學校の教課書に最も適當なるべし

東京三十間堀壹丁目
九春堂敬白

● 團々珍聞第五百九拾三號　**石版色入大附録**

四月廿三日發兌　壹部金六錢　府外郵税金壹錢

東京神田
團々社

● **小學教文雜誌**　毎月二回發行　毎號定價金四錢　郵税一冊金壹錢　十部前金三拾七錢

右ハ是迄連月三回發兌ノ處自今一層紙面ニ改良ヲ加ヘ連月二回續々印行可仕候此段附票仕置候也

東京日本橋區馬喰町貳町目
石川教育書房内
興文社

● **かなのくわい廣告**

●かなのくわいの趣意ハ我國の學問の道を容易くし世の便利を計らんが爲に総て假名のミにて文章を記すことを世ょ擴むるにあり●誰にても此會に入らんと思ふ人ハ其國所と姓名を假名にて記し(傍らに漢字を添へて)言ひ込むべし會にて之を許そときハ會員證を送る可し此會に入りたる人ハ會の費用を資くる爲に次の四通りの内何れにても其人の隨意にて出さるべし

○第一類　一度限金拾五圓以上隨意
○第二類　毎月金三拾錢
○第三類　毎月金拾錢
○第四類　一度限金五錢以上隨意

此四類ノ區別ハ別ニ仔細アルニアラズ志ハ厚クトモ其人々ノ都合ニモアルベケレバ其隨意ニトテ立テタルナリ

但し第二類三類の會費ハ三箇月分又ハ六箇月分を一纏めにして前納にせらるべし又遠き所の人ハ郵便切手(一錢の)にて送り越すとも差支なし

●第一類第二類第三類の會費を納むる人々にハかなのてかゞみといふ雜誌を進呈すべし

東京麹町有樂町三丁目二番地
かなのくわい

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ斷諸配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ヨて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券を本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
績文舍

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野錦五郎

東京芝區愛宕町一丁目三番地　大賣捌　修正堂
同　神田區淡路町　同　巖々堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY